

九州民放クラブ活動だより

新年度の活動再開に向けて

「休止中の九州民放クラブ熊本」

下田 和喜（RKK）

2020年度からコロナにより活動を完全停止している熊本は、まだ先の見えないトンネルの中にいます。クラブ会員の高齢者ワクチン接種は大体終わっていると推測していますが、働き盛りの人達のワクチン接種がほとんど進んでいないのが心配です。楽しみにしていた東京オリンピックが無観客の開催となり、新型コロナウイルス感染症の第5波が到来しています。熊本でも「デルタ株」の感染が広がりを見せています。この会報の発行時にどうなっているのか、まったく分からない状況です。

2021年度は、コロナ予防で3密を避けるため理事会が開けず総会の準備が出来ませんでした。

総会が開けないと事業計画が立ちません。役員の改選も出来ない状況です。

2022年度の定期総会は5月上旬に開催予定で準備します。理事会を2月に開いて、新年度の役員候補を選出します。総会は3密

を避ける為の方法を検討して、総会後の懇親会は無しで考えます。

事業計画については、これまでの活動を継続するかどうかを検討します。地域社会への奉仕活動として実施してきた「児童養護施設の子供たちの放送局見学」を8月に実施出来るのか。これまで助成してきた「朗読研究会」への活動支援をどうするのか。会員の親睦を図る行事として、サクラマチ熊本周辺での「名月を楽しむ会」の開催計画や「女性のつどい」の実施、マイクロバスで楽しむ「歴史散歩とグルメの旅」の実施、ゴルフの懇親コンペや囲碁大会の実施等々。検討課題がたくさんあり、一定の方向性を出したいと考えています。



修復進む熊本城

国文祭「川柳の祭典」へ協力

諸岩 則俊（UMK）

宮崎市で「第35回国文文化祭・みやざき2020」のプログラム「川柳の祭典」がこの夏開かれ、私達民放クラブ宮崎「あすなろ川柳会」が全面協力しました。アナウンサー出身の児玉晶子さん（かわせみ）は大役の司会を務め、報道出身の私（班竹）は神話をイメージさせる映像や入賞作品の投影画像を担当し、共に現役時代の経験を生かしたものとなりました。



司会 児玉晶子さん

宮崎国文祭全体のテーマは「神話の源流みやざき」、川柳の祭典のテーマも「太陽と緑あふれる神話の源流みやざき」。

宮崎らしい大会にするため、私がか多数所蔵する神話写真を活用しました。

先ず会場内通路に10枚ほどの神話パネルを並べ、開会前の舞台スクリーン上ではヒーリング曲と

共に神話写真20数枚のスライドショーで盛り上げました。

本番の入賞発表では神秘的な高千穂の映像の上に特選一句ずつ順次紹介しました。



神話パネル

また、コロナ感染防止のため空けた席に「神々の席」と命名した紙を貼りました。この試みは神々の参加した「川柳の祭典」として話題を呼び、ほかの国文祭関係者から貸し出してほしいとの声がかかっています。



空けた席は「神々の席」



今回の「川柳の祭典」では最高賞の文部科学大臣賞に宮崎市

の中武弓さんの作品（少しずつ忘れて朝食がうまい）が選ばれた。

協力した私たちには参加者や実行委員会から「さすがすばらしい司会でした。神話の映像も良かった」とのお褒めの言葉をいただきました。